

2016年(平成28年)1月28日(木曜日)

# 高速道の逆走防げ

## 東北地方整備局など装置で実験

高速道路の逆走事故を防ごうと、東北地方整備局と東北大が27日、「ドライビングシミュレーター」を使った逆走対策実験の様子を報道関係者に公開した。

実験は20日から多賀城市

のみやぎ復興パーク内に設置されたシミュレーターを使って行われ、20代と70代の男女約30人が協力。年度内に効果をまとめ、新年度、実際の逆走対策に生かすという。

実験では逆走が度々起きている三陸自動車道河北インターチェンジ(IC)付近の景色を大型スリーンに再現。個別の対策を施した国道45号上り線からIC入り口に至る5ルートを用意し、運転してもらった。具体的な対策は①右折車

線の路面を緑色に舗装し誘導②右折車線西端の側線だけ緑色に舗装③IC出入り口の境目にポールを設置④入り口に矢印の標識を設置⑤入り口の路面に矢印を設置①の五つ。

現状と五つの対策を実施した場合の計6ルートでブレーキのタイミングやハンドル操作の変化などを比較し、より安全な対策を調べる。

実験に参加した石巻市の神山清さん(71)は「緑色の路面を舗装した対策が、色が目立って分かりやすかった」と語った。

過去5年、東北の高速道路で起きた逆走の約7割が65歳以上の高齢者。実験を担当する東北大未来科学技術共同研究センターの山辺

## 多賀城 6ルート 運転操作比較



ドライビングシミュレーターを使った逆走対策実験

茂之准教授は「逆走対策の多い高齢者の事故防止に役効果を数値化し、特に最近 立てたい」と話した。